



- 東京メトロ日比谷線 小伝馬町駅 徒歩 6 分
- 都営新宿線 馬喰横山駅 徒歩 3 分
- 都営浅草線 東日本橋駅 徒歩 4 分
- JR 総武線快速 馬喰町駅 徒歩 4 分

特定非営利活動法人 日本国際湿地保全連合
Wetlands International Japan (WIJ)

〒103-0011
東京都中央区日本橋大伝馬町 17-1 城野ビルII 2階
TEL : 03-5614-2150 , FAX : 03-6806-4187
Email : info@wi-japan.org
URL : <https://japan.wetlands.org/ja/>



Wetlands International (国際湿地保全連合) は、世界各地で湿地の課題に取り組む国際 NGO です。

アフリカやアジアを中心に世界 20 か国に拠点を設け、国際水鳥センサス (IWC: International Waterbird Census) など、歴史ある世界規模のモニタリングプロジェクトを実施してきました。

近年では、湿地の防災・減災機能に着目した Eco-DRR やグリーンインフラストラクチャーに関するプロジェクトをはじめ、多量の炭素を泥炭として貯蔵する泥炭湿地の保全・再生プロジェクトなどを、世界各国で展開しています。



Africa office - Senegal
Mali
Guinea - Bissau
Kenya
Ethiopia
Nigeria
Uganda
Argentina
Panama
Guatemala
China
Japan
Indonesia
Malaysia
Brunei
Philippines
South Asia
European Association
Russia
Head office - Netherlands



Wetlands
INTERNATIONAL

1977年11月 国際水禽湿地調査局日本委員会として設立
 1996年3月 国際湿地保全連合日本委員会に改名
 2004年8月 特定非営利活動法人（NPO 法人）格を取得

特定非営利活動法人 日本国際湿地保全連合の前身は、湿地保全に取り組む国内の NGO の連合体として 1977 年に設立され、日本のラムサール条約の批准を推進する母体となりました。

現在は、オランダに本部を置く国際 NGO, Wetlands International の日本支部として、世界的に減少している湿地とその生物多様性の保全を図り、賢明な利用（ワיזユース）を促進することを目的に、主に沿岸域・陸水域での調査研究や湿地と人の関わりの事例収集、シンポジウムやイベントの開催などを行っています。

Wetlands International は、ラムサール条約が認める国際団体パートナー (IOPs: International Organization Partners) の一つであり、様々な団体と連携しながら湿地の保全・再生や賢明な利用の促進に関するプロジェクトを実施しています。

私たちは、

“湿地の生物多様性”と“湿地と人のつながり”的観点から、湿地の科学的・文化的価値を普及啓発し、湿地の賢明な利用を促進し、国際的な視野をもって、持続可能な社会の実現に貢献します。



豊かなコミュニティ



清らかで十分な水



災害の低減



豊富な食糧



二酸化炭素放出の削減



多様で美しい自然

ビジョン

- 湿地が人々に資源をもたらし、生命をはぐくみ、その美しさゆえに大切にされ、守られていく世界
- A world where wetlands are treasured and nurtured for their beauty, the life they support and the resources they provide.

ミッション

- 湿地や、湿地の資源と生物多様性を維持し再生すること
- To sustain and restore wetlands, their resources and biodiversity.

ラムサール条約のCEPA
NGO フォーカルポイント

日本におけるラムサール条約の CEPA（コミュニケーション・能力養成・教育・参加・普及啓発）の NGO フォーカルポイントとして、人と自然の良好な関係性や距離感を摸索しながら課題の解決を目指します。

行政や研究機関はもとより、教育機関や市民団体など、多様なセクターと連携し、ラムサール条約登録湿地をはじめとする重要性の高い湿地の情報収集、全国規模の生物分布調査やモニタリング、湿地の文化や技術に関する事例収集、シンポジウムやイベントの開催などを行っています。

多様なネットワーク

湿地の生物多様性の状況や生態系機能の重要性を科学的根拠と専門的知見に基づき伝えることで、情報の透明性を高め、客觀性を持つ意思決定を促進します。私たちは、科学に基づき課題を解決していきます。

科学に基づくアプローチ